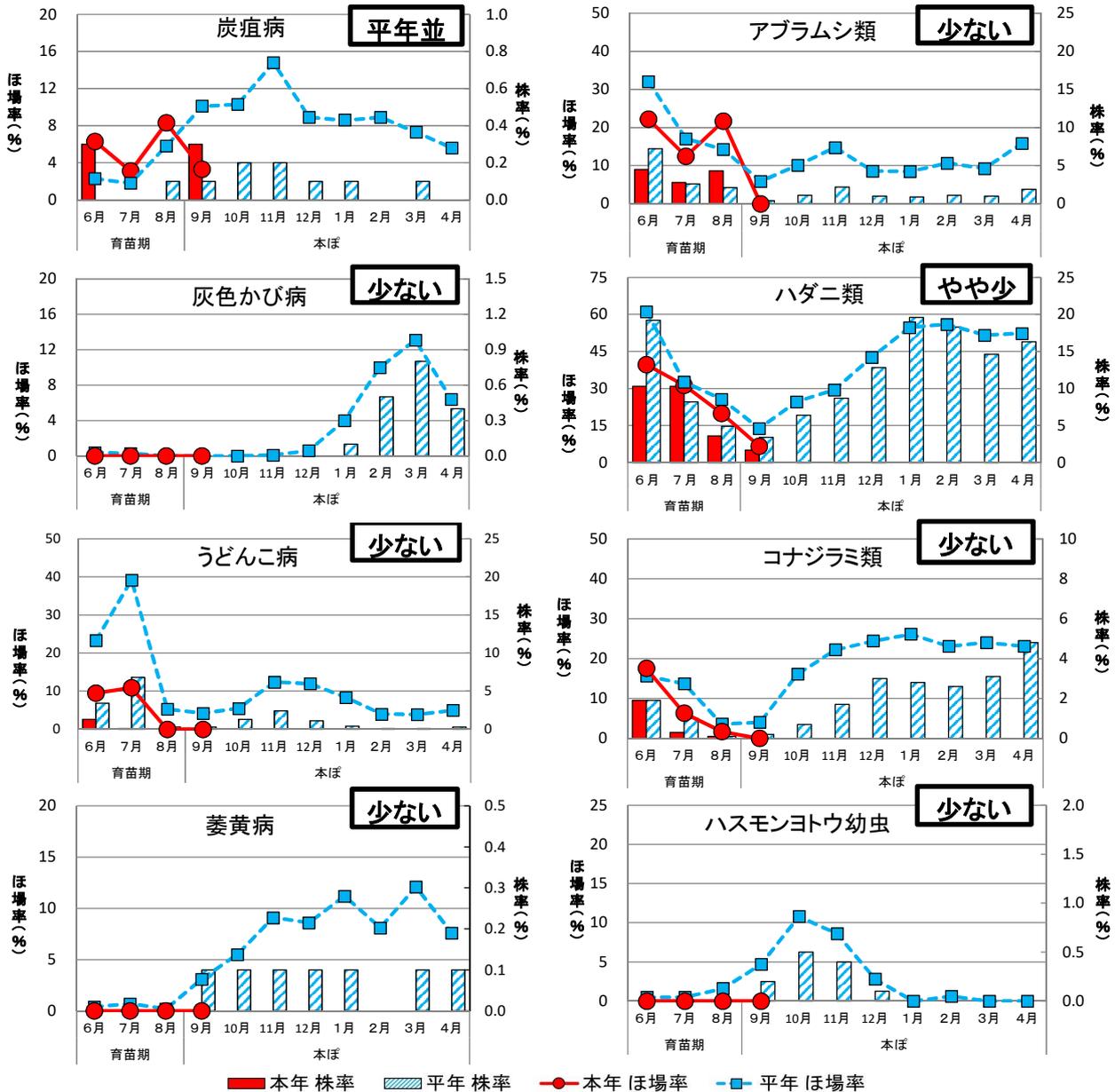


いちご病害虫情報第4号（9月）

令和4（2022）年9月16日
栃木県農業環境指導センター

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：60か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%):発生株数/調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%):発生が確認されたほ場数/調査ほ場数
※今回は主に育苗期の苗を調査

■ 今月の防除ポイント

一 天敵導入前の病害虫防除 一
天敵導入前にハダニ類の密度を低くすることが最も重要です！

【ハダニ類】

- ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
- 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

■ 今月のトピックス ハスモンヨトウ

1 生態

毛で覆われた卵塊から生まれ、若齢のうちには集団で葉を食害します。やがて体が大きくなってくると周囲の株へと分散し、昼間は土中や地際に隠れるようになります。

頭の後ろに1対の黒い斑紋があるのが特徴です。

幼虫が大きくなると薬剤も効きづらくなるので、若齢の集団でいるうちに防除しましょう。

2 被害の特徴

- (1) 卵塊は、毛に覆われた状態でいちごの葉裏に産み付けられることが多い（写真1）。
- (2) ふ化間もない若齢幼虫は、すぐには分散せず、集団で葉を加害し、葉の表皮を残して葉肉を食害するため、葉には白～褐色で不整形のカスリ状の食害となる（写真2、3）。
- (3) 中～老齢幼虫になると分散して旺盛に食害するため、被害が拡大する。



写真1 葉裏の卵塊



写真2 若齢幼虫による被害



写真3 ハスモンヨトウ幼虫

(参考) いちごの葉を食害する蛾の幼虫の比較



写真4 ハスモンヨトウ



写真5 ヨトウガ



写真6 オオタバコガ

○ヨトウガ

ハスモンヨトウとは異なり、卵塊は毛で覆われませんが、見た目はよく似ていますが、頭の後ろに黒い斑紋は現れません。また、若齢幼虫は尺取虫のような歩き方をするので、ハスモンヨトウと区別できません（写真5）。

○オオタバコガ

1粒ずつ産み付けられた卵から孵化するので、若齢のうちから単独で食害します。ヨトウムシ類とは異なり、体表面の毛が太く、毛穴が隆起するのが特徴です（写真6）。

3 防除対策

- (1) ほ場周辺の雑草は発生源になるため、雑草管理を徹底する。
- (2) 定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
- (3) 成虫の侵入を阻止するため、施設の開口部や出入りに防虫ネット（目合い4mm以下、アザミウマ等の微小害虫も対象とする場合は0.4mm以下）を展張する。
また、施設のパイプ等の資材にも産卵することもあるので注意して観察し、卵塊を見つけた場合は潰して除去する。
- (4) 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。